

ほっかいどうの社会保障

2009年6月22日

北海道社会保障推進協議会

いまこそ社保協の出番！！

北海道社保協 第16回定期総会を開く

～貧困と排除を許さないたたかいと 連帯を広げよう～

6月20日に第16回定期総会を札幌市かでの2・7で開催しました。

釧路・函館・旭川・苫小牧・札幌・札幌西区・札幌北区・札幌豊平区・札幌東区などの地域社保協や加盟団体から60人が参加して熱心な討議が行われました。

総会に先立つ記念講演は、「貧困と格差社会にどう立ち向かうか」と題して、高田 哲氏（名寄市立大学教授）が行いました。高田氏は国民生活よりも大企業の利益最優先の政治状況を郵政問題や補正予算にふれながら批判し、一方で貧困が拡大再生産され、とくに「若者の低所得や福祉現場の低賃金と労働強化は深刻」と指摘しました。貧困に立ち向かうために、20世紀の社会保障の大発見である「貧困は個人の責任ではないこと」「戦争国家から平和国家＝福祉国家へ、人間は生まれながらにして尊厳を持っている」を基本に、「貧困は政治の責任」を明確にして「ダイナミックな社会保障運動を展開しよう」訴えました。



国民の力で政治を変えるチャンス

運動方針では、「国民の塗炭の苦しみが増大する中、社会保障の役割と拡充が求められている時はない」と社保協の出番を強調。重点として、来るべき総選挙で「社会保障の拡充で国民生活と経済を発展させる政治」に転換することに全力を挙げることも、①「貧困からの脱却を正面に据え」たたかいと連帯のとりくみ、②「社会保障費2200億円削減」から社会保障拡充への転換、③社会保障の財源としての消費税増税は許さない運動、④社保協活動の強化を確認しました。

討論では、「釧路は、生保受給率が47.9%となった。求人倍率も0.29で雇用が厳しい。生活困難者がまだたくさんいるので労働組合などと支援や制度活用をすすめたい」「函館でもホームレスの相談会を3回実施。車上生活を自立させたり、山の中で生活していた人に住宅確保したり支援活動をすすめている」「介護改善で札幌市と3回交渉を積み重ねているが、現場や利用者の実態を訴えることが、行政の態度を変える力になる」「妊婦検診が道内全市町村で14回実施が実現した。いまはヒブワクチン（細菌性髄膜炎・1回8千円4回接種）の無料化運動をすすめている」「障害者が自ら中心となって札幌市の交通費削減の運動をすすめ、2万を超える署名を集めている」など、各分野・各地の豊かなたたかいが交流されました。また、10月に開催される道社会保障学校について、地元苫小牧から「全道のみなさん、どうぞ苫小牧へ」との呼びかけがありました。

新事務局長に吉岡恒雄さんを選出

役員体制では、吉岡恒雄さん（事務局次長）が新たに事務局長に選出され、新役員挨拶で決意を述べました。甲斐事務局長と片岡事務局次長は副会長に、また、新たに事務局次長に沢野天さん（道民医連）と渡部努さん（年金者組合）が加わりました。